

## かどまパークミーティング(市民ワークショップ)の進捗状況と今後の進め方について

## 1. かどまパークミーティング(市民ワークショップ)各回のテーマと流れ

本ワークショップは、地域の実情を十分にふまえ、市民の皆さんにも共感いただける実現性のある計画づくりや、モデルプロジェクトをはじめとした今後の市民協働による公園づくりにつなげるため、各地域(6つの中学校区)単位で検討するとともに、各地域が一堂に会して目的の共有や成果の共有ができるように、各回のテーマを設定し、実施する。

開催回	開催時期	テーマ・目的
第1回 <全体①>	R3. 7. 25 済	<u>「みんなが憩える、魅力あふれる門真市の公園とは？」</u> 【目的】公園の現状と課題、市民WSの目標共有 【内容】地域ごとに異なる公園の成り立ち、公園の特徴と課題、公園にかかわる社会潮流等を共有し、目指す公園像を考える。
第2回 <地域①> ×6地域	R3. 9~10月 済	<u>「わがまちの公園はどんな公園？」</u> 【目的】地域の公園の実情把握と公園の可能性の検討 【内容】中学校区を単位とした6地域それぞれで、まちを歩きや動画鑑賞しながら公園の実情を把握するとともに、「パークイノベーションゲーム(前半)」を通じて公園の可能性について考える。
第3回 <地域②> ×6地域	R3. 11-12月 ※初回 11/13 予定	<u>「わがまちの公園を考えよう！」</u> 【目的】地域別パークイノベーションの検討 【内容】第2回で考えた公園の可能性をふまえ、「パークイノベーションゲーム(後半)」を通じて各地域の特性や公園の立地に応じた特徴ある公園や使い分けについて考える。 また、市や地域の核となる大きな公園(弁天池公園など)の利活用アイデアを考える。
第4回 <全体②>	R4. 1-2月頃 予定	<u>「みんなが憩える、魅力あふれる公園を目指して！」</u> 【目的】ワークショップの成果の共有、市民協働の機運づくり 【内容】各地域での成果を発表・共有し、目指す目標像の実現に向けた市民協働のアイデアを考える。

## 2. 第1回かどまパークミーティング(全体1回目)実施概要

### (1)実施概要

第1回かどまパークミーティングは以下の要領で開催した。地域住民をはじめ、市内通勤者や学生など、総数 36 名の様々な立場の方々にご参加いただくことができ、かどまパークミーティングの開催目的について共有するとともに、普段、どのように公園を使っているか、どんな公園にしたいかについて、活発な意見交換をすることができた。

■日時:令和 3 年 7 月 25 日(日)10 時~12 時

■場所:門真市民交流プラザ

■参加者数

地域	参加者数	参加者内訳
はすはな中	5名	地域3、市職員2
第二中	5名	地域3、学生2
第三中	5名	地域2、子ども lobby1、市職員1、学生1
第四中	6名	地域3、子ども lobby2、学生1
第五中	7名	地域5、事業者1、学生1
第七中	8名	地域5、子ども lobby3
合計	36名	地域 21、事業者 1、子ども lobby6、学生 5、市職員 3

■当日のプログラム

1. 開会あいさつ(市長より)
2. かどまパークミーティング開催の目的と流れ
3. 前半:かどまの公園、どんなふうに使ってる?(使ってた?)
4. 後半:かどまの公園をどんな公園にしたい?
5. 発表・総括
6. 閉会のあいさつ

### (2)開催結果

どんなふうに使っているか、については、遊び場や健康づくり、お祭りなど地域活動の場など、それぞれに公園を利用されていることがわかったとともに、共通の主な意見として、各地域で利用者がほとんど見られない小さな公園があるという意見があった。

どんな公園になったらよいか、については、それぞれのライフスタイルに応じた利用イメージをお話いただいただけでなく、小さな公園の有効活用や使い分けに関する意見・アイデアも多く挙げられた。



WSの様子(第1回)

### 3. 第2回(地域別1回目)かどまパークミーティング実施概要

#### (1)実施概要

各地域(6つの中学校区)の会場において、地域の公園のようすを共有するため公園動画を鑑賞したのち、「パークイノベーションゲーム」を実施した。なお、当初は全地域での公園見学を予定していたが、より多くの公園の様子を共有できる動画紹介に変更し、公園見学は会場の立地により可能な地域で(第三中、第四中、第五中)で実施した。

#### ■日時・場所

実施日	地域名	会場	参加者数
9/11	第二中学校区	地域高齢者交流サロン	11名
9/12	第七中学校区	市民交流プラザ	6名
9/18	はすはな中学校区	中塚荘	8名
9/23	第三中学校区	門真市役所	5名
9/25	第五中学校区	弁天池公園	7名
10/9	第四中学校区	千石東自治会館	8名

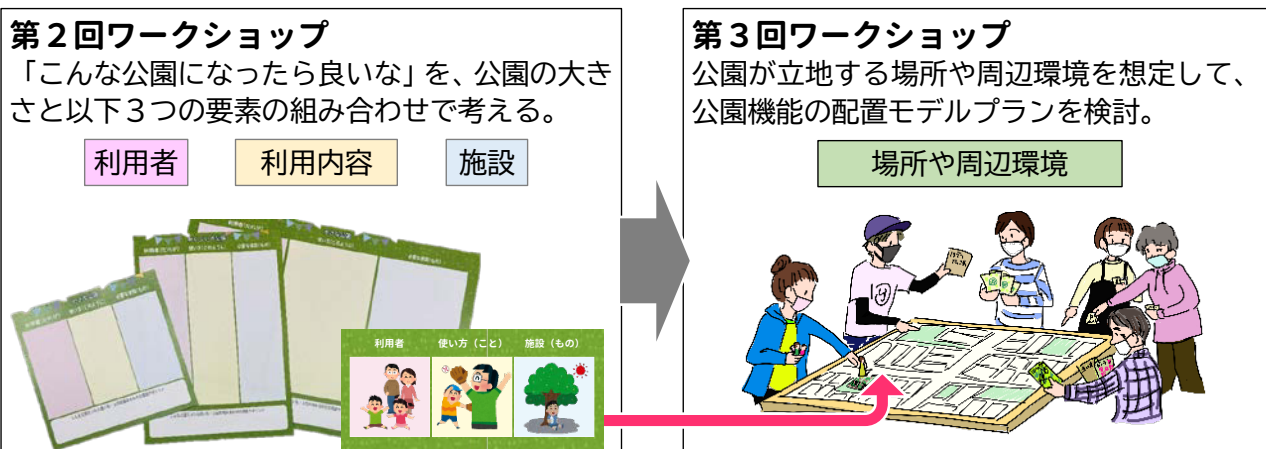
#### ■第2回(+第3回)の開催方法とねらい

##### ①パークイノベーションゲーム実施の目的

- 「こんな公園になったら良いな」という公園の可能性について、楽しく考えていただけるように、「利用者」「利用内容」「施設」の組み合わせと、「場所や周辺環境」に応じた公園機能の配置プラン等をカードゲーム形式で考える「パークイノベーションゲーム」を実施。

##### ②各回の流れ

- 第2回(地域別1回目)では、公園の大きさ(大・中・小)に応じて「利用者」「利用内容」「施設」を組み合わせた「公園カード」を参加者ごとに作成した。
- 第3回(地域別2回目)では、この「公園カード」を、各地域に模した公園マップ上に、公園が立地する「場所や周辺環境」を踏まえながら配置し、各地域の公園機能の配置モデルプランを検討する。



#### (2)実施結果

※各地域の結果は次頁以降。

■主な意見

<コミュニティ形成のきっかけづくりに公園を活かそう>

- 多様な年代の子ども達が集まる公園があれば、子ども同士が交流して人間関係が育まれる。
- 日常的に人が集まる公園があれば、「あのひと元気かな」という地域の見守りになる。
- 清掃など公園での活動がコミュニティ形成のきっかけになると思う。地域の人たちが集まって公園ミーティングができるような場所になるとよい。
- 自治会の高齢化でなかなか厳しいが、地域のまつりや町会イベントができればよい。

<子ども達がのびのび遊べて、子育て世代が使いやすい公園にしよう>

- ボール遊びをしていると、危険じゃないのに怒られるのが悲しい。もっと遊ばせてあげたい。
- 旧北小学校の校庭でグラウンドゴルフをしているが、子ども達にもボール遊びができるように解放してあげたらよいのでは。
- スケートボード等も子ども達にやらせてあげたいけど、地域内では難しいかも。弁天池公園など大きな公園ならできるかもしれないので、ここならできる、という公園を作ってあげたい。
- 子どもが楽しく遊べて、お母さんも子育てのリフレッシュができるように、キッチンカーでカフェなど若者が立ち寄りやすい公園があるとよい。
- 高齢の母親と一緒に散歩やジョギングをする時に休憩で立ち寄れる公園があるとよい。



WSの様子(はすはな中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

**公園の立地を活かして、子育て世代が利用しやすい公園について考えよう**

⇒幸福町公園のように、多様な人に使われている反面、利用過多になっている公園もあるため、地域内に小さな公園や中くらいの公園が多く立地していることを活かして、子ども達が遊びやすく、子育てしやすい公園とはどんな公園か、考えてみる。

**コミュニティづくりのきっかけになるような公園について考えよう**

⇒コミュニティづくりのきっかけとなるような公園の使い方について考えてみる。

※一中跡地や北小跡地グラウンドの活用についても一緒に考える。



■主な意見

<お年寄りや幼児連れの親子が使いやすい公園にしよう>

- 第二中学校区の地域内には大きな公園が無く、中くらいの公園も限られているが、まちなかの小さな公園は、特に高齢者や幼児向けの公園として使えそう。
- ボール遊びができる公園は、第二京阪道路の南側にある北島東町公園や、隣の中学校区の北打越公園などの中くらいまたは大きな公園が使えるのでは。

<子ども達が遊びやすいように、公園を個性化して有効活用しよう>

- 子どもの利用が多い公園(舟田町公園など)では、特徴的な遊具を設置して楽しく遊べるように。
- 子どもといっても年齢層によって遊び方が違うので、それぞれに遊びやすい公園を。遊具が無い公園があってもよい。詰め込みすぎず、必要なものを考えて絞っていくのがよい。
- 空間認識能力を高める砂場など、子ども達の成長に役立つ工夫を。
- ボール遊び(野球)ができる公園。木陰や四阿など休憩しやすい公園。平常時は遊具として、災害時は防災施設として利用できる施設など、特徴的な公園を。
- 施設併設型の公園(会場の地域高齢者交流サロンは公園に併設)は、雨でも使える可能性がある。



WSの様子(第二中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

**お年寄りや幼児連れの親子が使いやすい公園について考えてみよう**

⇒施設併設型の公園(地域高齢者交流サロン前公園、大池町広場児童遊園)の利活用アイデアについて考える。

**子ども達の遊び場として、個性的な公園とはどんな公園か考えてみよう**

⇒特徴的な遊びができる公園や、ボール遊びやイベント(地域行事など)ができる場所の確保について考えてみる。

※新設の公園(大和田駅南エリア)の活用についても一緒に考える。

■主な意見

<若者や子育て世代が使いやすい公園にしよう>

- 初心者キャンパー向けにキャンプ体験ができる公園。食材調達など周辺のお店と連携できそう。
- 福祉系大学では屋外実習の場を探している。
- 子ども達を選ぶ公園は、守口市の大枝公園のように大型の複合遊具があるなど、見た目に特徴がある公園。そういった公園も必要だと思う。
- 障がい者など誰でも遊べるように、インクルーシブ遊具などあるとよい。
- 乳幼児向けの公園とお年寄り向けの公園が隣接してあるのも良い。交流が生まれると双方にとって良いことだと思う。

<コミュニティを育む場として公園を充実させよう(維持管理上の課題への対応)>

- 地域で管理しやすい公園に。そのためには水道や電源、倉庫などがあると管理しやすい。
- 市が管理している公園だと分かってもらえれば、使ってもよい公園だと分かるし、マナー・ルールも意識してもらえると思うので、掲示板や園名板を設置した方がよい。
- 子ども達が捨てるゴミを地元の人達が掃除してくれているが、高齢化しており継続が危ぶまれる。
- 若者がたむろしている公園があり、非行の温床にならないか心配。



WSの様子(第三中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

いろいろな人が訪れる、駅周辺や京阪沿線の公園について考えてみよう

⇒第一回で意見があった、若者が利用しやすい公園、門真のまちのイメージアップにつながる公園とはどんな公園か考えてみる

中くらいの公園の役割について考えてみよう

⇒柳町公園、速見公園、元町中央公園など、一つの公園で複数の使い方の組み合わせを、園内ゾーニングとともに考えてみる

小さな公園の特色づけについて考えてみよう

⇒地域で使いやすい公園、コミュニティガーデンになるような公園はどんな公園か考えてみる



■主な意見

<子どもや若者の活気があふれ、安心して使える公園にしよう>

- 小さな公園は、遊び場としては幼児までが限界。遊具がなくても砂場ひとつあれば、子どもは楽しく遊び、親にとっても過ごしやすい。泥遊びができるように水道があれば、なお良い。
- よくある決まった遊具よりも、子ども達が考えながら遊べる場所にしてあげたい。
- 中くらいの公園は、中途半端な広場になるくらいなら、健康遊具など大人向けの遊具も含めて、いろいろな施設がある方が楽しい。
- 学生や子ども達が、ダンスの練習ができる場所があればよいと思う。
- 子どもや若者にも利用されて、活気が感じられる公園になれば、みんな安心して利用できる。

<地域の見守りにつながる、多世代が過ごしやすい公園にしよう>

- 小さな子どもやお年寄りが集い、町内の人たちの団らんの場として過ごせるとよい。
- 行けば誰かに会える公園、多世代のいろいろな人の声が聞こえてくるような公園になるとよい。
- 子ども達の遊び場と、お年寄りの健康づくりと一緒にあると、見守りにつながる。
- 子ども達が遊んでいる姿や、お父さんと自転車の練習をしている姿は、見ていてほほえましい。
- 全世代、みんなが集える公園にするには、交流のきっかけとして普段の清掃などの手入れが大事。
- お年寄りの買い物や散歩のときのために、ちょっと腰掛けられる場所があるとよい。公園の大きさに関わらず、車の通らない道に、まちなかにところどころにあることが大事。



WSの様子(第四中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

子ども達もお年寄りも使いやすく、地域の見守りにつながる公園について考えてみよう

⇒幼児、小学校低・高学年、中高生、それぞれの年齢層に応じて遊びやすく、地域の人も集まる、多世代の人がお互いを見守りにつながる公園について考えてみよう。

歩きやすいまち、立ち寄りやすい公園について考えてみよう

⇒子ども達やお年寄りが安心して歩きやすいまちにするために、公園の活かし方、遊歩道やまちなかのみどりのスポットなどの活かし方について考えてみよう。

※中高生の広場利用と地域利用のすみ分け等、地域主体の公園の管理についても検討する。

■主な意見

<大・中・小公園を使い分け、それぞれの規模に応じて使い方を特化しよう>

- 大・中・小それぞれの公園を使い分けると同時に、それぞれの規模に応じた防災機能を。
- 中くらいの公園は若者世代や働く人にも使ってもらえるように、スポーツやお祭りの場になれば。
- 小規模公園は、幼児連れやお年寄りが落ち着いて遊んだり、静かに過ごしたりできるように。大きな公園は思いっきり遊べる公園に。
- 小規模公園、中くらいの公園は個人や団体の特定利用の場があっても良いと思う。大きな公園はダンスやアートなど大学生や若者の自己表現の場としてなど、様々な人が使えるように。

<交流の場として公園を活かそう>

- いつもゲートボールをしている公園で、周辺の工場などに勤めている人に氷をあげたりして交流している。これからも、公園でそのような交流ができると良いし、親子連れや子ども達とお年寄り、三世代交流の場にもなるとよい。
- 小規模公園は、子ども達とシルバーの世代間交流ができ、子ども同士の出会いの場所に。

<弁天池公園をもっと使いこなそう>

- 今利用されている状況が大事。それに、おまつりやキッチンカーのようなイベントもできると思う。
- 大きな公園は、すべての世代が使いやすく、防災、自然とのふれあい、イベント開催の場として活用できるとよい。
- 子ども達には、アスレチック遊具などで元気に遊ばせてあげたい。
- 大きい公園で、BBQ やイベントなど学生や若者が興味ありそうなことができれば来てくれそう。



WSの様子(第五中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

**大・中・小公園の使い分けと利活用について考えてみよう**

⇒子ども達からお年寄りまで、若者や働く人など、様々な人が使いやすく、楽しめる公園にするために、大・中・小公園をどのように使い分ければよいか考えてみる

**弁天池公園の特長づけと利活用イメージについて考えてみよう**

⇒現在の使われ方をふまえながら、より魅力的な弁天池公園にするための利活用イメージについて考えてみる



■主な意見

<中は小を兼ね、大は中・小を兼ねながら、規模に応じて多様な使い方ができるようにしよう>

- 中くらいの公園も大きな公園も、近所の人にとっては身近な公園。中は小を兼ねながら少し違った利用を、大は中・小を兼ねながらイベントなどが出来て地域外の人でも使えるように。
- 小さな公園こそ身近で使いやすい公園に。散歩や買い物がてらふらっと立ち寄れる、お年寄りにも使いやすい公園。

<小規模公園・中くらいの公園は、多様な遊びができるように特化しよう>

- 小規模公園と中くらいの公園は、それぞれ子どもの成長に合わせた遊びができるように。
- 遊具だけでなく、子ども達に考えさせながら遊ばせられる公園。土の広場だけの方がいろいろな遊びができる。
- 小さくても、こんなところにこんな公園が！というようなことがあれば使ってもらえる。例えば草むらにして自然体験ができるとか。
- 小さい子ども達を遊ばせるためには、清潔で草ちゃんと刈られていないと利用しづらい。
- 子どもを遊ばせながら親もくつろげる公園は、お年寄りもぼーっと過ごせる公園。

<地域コミュニティが自然と育まれる公園にしよう>

- 清掃や花壇づくりは、コミュニティ醸成の場として大事で、自然と活動が生まれてくるような公園になるとよいと思う(最初から活動することが前提ではなく)。



WSの様子(第七中学校区)

■第3回 WS(地域別2回目)における意見交換のポイント

**複数の中・小公園を活かして、子ども達の多様な遊び場になる公園について考えよう**

⇒他地域と比べて、大・中・小公園がバランスよく配置されていることも踏まえながら、大中小それぞれの規模や周辺環境に応じた公園の使いこなし方について考えてみる。

**地域コミュニティが育まれる公園とはどんな公園か考えてみよう**

⇒公園がコミュニティ醸成の場となるために、まずできることは何か考えてみる。